

学びをひろげる (第16回)

※ ○は、自分以外の参加した人の数です

まる (わたしと○人の会)

日時 2016年6月25日(土) (1時45分～5時)
場所 城東区民センター4階 小会議室3
〒536-8510 大阪市城東区中央3-5-45 Tel.06-6932-2000
参加費 500円(会場費・運営費等) ※学生は、無料です。

一人で拡がらない学びを○(まる)人が集まり、多様な人たち(年齢、国籍、職種など様々な人たち)との出会い・対話を通して自分の学びを拡げ、授業づくり・教材づくりをしませんか。もう一度、教育・授業のあり方をていねいに見つめ語り合しましょう。



大阪市営地下鉄 長堀鶴見緑地線・今里筋線「蒲生四丁目駅」1番・7番出口
徒歩約5分

京阪電鉄 野江駅 徒歩約8分

前回 第15回の内容

浅田芳正さん：「教育は教えないこと！～考える力を育てる～」

浅田芳正さんが奈良日日新聞に1年間連載されていた教育コラム『教育は教えないこと！～考える力を育てる～』が、出版されました。それを機会にこの「教育は教えないこと」という刺激的で、なかなか奥深い題名をテーマに、浅田さんの実践と教育思想を大いに語っていただきました。

◆参加者が一人ひとり「教えない」をキー・ワードに、様々な話を出して、意見を交流しました。▼基では、「定石」を知ることが大切。「一を聞いて十を知る」というように、「一」を教えてあとは自ら学ぶものである。▼東北大震災発生後の2か月後に支援ボランティアに行った。被災者は横になったまま動かない。仲間と相談して、「タコ焼きをしよう」と話し、タコ焼きを作り始めると、子どもたちが集まってきた。興味を持ったその親たち、まわりの大人たちもやってきて、自分たちでタコ焼きを焼いて食べ始めた。自然に話が出てくるようになった。そのとき自分たちは道具を整えて、あとは後ろに下がって見ていただけだった。何かをやってあげよう、支援しようとするれば、相手が動かず、私たちが後ろに下がると、みんなが前に現れて動きが生まれてきたように思う。▼ヘアーインディアンの話を出しながら、彼らには「教える」「指図する」という文化がない。「学校文化」とは異質な文化である…などら。

◆浅田さんは著書の中で述べています。▼本来、educationとは、「その人が持っている能力を引き出し開発すること」という意味である。「教えること」とは英語でteaching。日本人はどこかでこの二つの意味をはき違えたようだ。educationを「教育」と翻訳したため、「教師は子どもを教える人」になってしまった。具体的な授業実践や子どもの姿を通して、示唆に富んだ話が満載です。ぜひご一読を。

浅田芳正著 『教育は教えないこと！～考える力を育てる～』

奈良日日新聞社刊 1500円+税 当日会場にて販売します。



今回 第16回は



研究会のようす

岡中克史さん(三重県在住 中学校美術教員)：「森のアトリエ」

ホームページ (https://twitter.com/atelier_woods) には次のように紹介されています。

ーインクルーシブなみんなの居場所として、ARTを起点に運営をしたいと日々実践です。いろいろな生きにくさの横に寄り添って、生き直しの場所としてありたいのが、私たちの願いです。美術・音楽・ダンス・文章などなど、多様な表現活動のサポートを、伊賀の森のアトリエでしています。(´_`) よろしければ、どうぞおこしくださいね。ー

岡中さんが2002年の4月から運営されている森のアトリエについて、▼どうして始まったのか、はじめようと思ったのか ▼具体的な活動 ▼どんな人が来て何をしているのか ▼これから…などについて、お話ししていただきます。

※(松森)地域の中で「居場所」づくり、どんなものなのかとても惹かれます。乞うご期待!!

「学びをひろげる」スタッフ 堀 智晴、松森 俊尚、山本 卓雄

連絡先 松森 (☎090・1960・3469 ☎✉gakimon57tm@ezweb.ne.jp ☎✉matumori@crux.ocn.ne.jp)

山本 (☎✉yamamoto5.cham@gmail.com) 堀 (☎✉hori720@hotmail.com)

★次回第17回研究会は、2016年10月8日(土) 午後1時45分～5時 クレオ大阪東(予定) で行います★